

甥っ子の「ことばの教室」について行ってみた。

すこぶるおしゃべりな4歳の我が甥っ子(ちなみに、顔も性質も好きな食べ物も私そっくりである。私が産んだかもしれないとさえ錯覚する)は、「力行」がすべて「タ行」になる。例えば、「ケーキかって」は、「テーキたって」になる。もちろん、なんとなく想像して言いたいことはわかるが、たまに文章が長かったりすると、わからないこともある。甥っ子も言いたいことが伝わらないもどかしさをたまに表したりする。

「別にいいじゃん、力行がタ行になっても」と伯母である私は思うが、母親(我が妹)にとっては気になる事項なのであろう。かかりつけの小児科に併設されている「ことばの教室」に予約をとり、行ってみることにしたのである。

「ことば」の教室の個室に入ると、言語聴覚士の方が絵カードを使い、甥っ子にたくさんの質問を始める。

例えば、自分の周りにおもちゃをすべて集めて遊んでいる一人の男の子から少し距離をとって3人の男の子たちが見ているカードを見せ、「この3人の男の子たちはどういう気持ち?」とか。(甥っ子は「悲しい気持ち」と言っていて、なんだかほっとしました。これが親心というものでしょうか)

他には、空へのぼっていく風船をとろうと2階のベランダから身を乗り出す男の子の絵を見せ、「この男の子はこの後どうなると思う?」とか。(これは難しかったらしく、ヒントをもらい、「あぶない!」と言っていました。でも、これは「風船で浮かぶ」という答えでも私は正解としたいが)

私は衝撃を受けた。

「やっぱり”ことばは世界をあらしめる”んだ!!」と心の底から感激した。

(去年の国語の授業で言語論をしたときに「言語論3か条」言いましたね。覚えてる?)

てっきり、発声の仕方や舌の使い方などの訓練指導があるのだと思っていたから。そうではなく、

甥っ子が『「ことば」でどのように周りの世界を捉えているか』という確認だったのである。目から鱗であった。

すべてのことは、その人の母語で認識をする。数字であれ、絵であれ、目に見えない気持ちであれ、外国語でさえ…母語によって頭の中で解釈される。母語でどのように捉えられているかが、次の理解への基礎なんだな〜と今更ながら「ことばの教室」で知りました。

「国語ができないと、他の教科はできない」などというが、私は大して信じていなかった。(あ、「国語ができるから、他の教科もできる」というのはまた違う気がするが…)でも、やっぱり国語って大切なのだな〜と「国語の先生」なのに無責任ではあるが、改めて強く思ったのである。

ということで(?), 来週の29日(木)は日南高校オープンスクールです。

一人一人の「ことば」で中学生をおもてなしし、高校生を見せつけてください。今年のオープンスクールが成功するか否かはあなたたちにかかっています。夏休みを謳歌する前に、少し力を貸してください。よろしくね。

【週行事予定】

月	日	曜	行事予定	FT	課外	備考
7	22	木	海の日			
	23	金	スポーツの日(五輪開会式)			
	24	土				
	25	日				
	26	月	特編授業(1,2年①~④,3年①~⑥)	×	○	7:25 登校
	27	火	特編授業 (1,2年①~④,3年①~⑥)	×	○	7:25 登校
	28	水	特編授業 (1,2年①~④,3年①~⑥)	×	○	7:25 登校
	29	木	特編授業 オープンスクール 探究説明会 <u>百周年ポロシャツ!</u>	×	○	7:25 着席
	30	金	終業日 心肺蘇生法講習会 学習相談会	×	×	8:15 着席